

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students

プロフィール (Profile)



氏名 (Name) 経遠里菜
所属 (School) 工学域 機械系学類
学年 (Grade) 3年

留学先 (Name of overseas institution)
マラヤ大学

留学期間 (study abroad period)
2020/8/24~2020/9/11

記入日 (Date) 2020/9/24

留学レポート Study Abroad Report

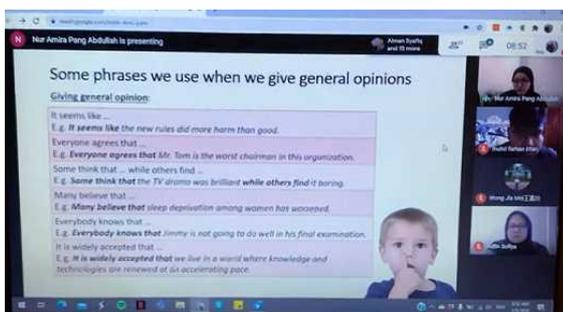
私は、夏季期間中に3週間のオンライン型英語プログラムに参加した。その経験について書く。

参加した理由

もともと短期留学に興味はあったが、アルバイトや部活もあり、なかなか手を出せないうちに3回生になってしまっていた。そんな時にオンラインプログラムの存在を知った。オンラインなら他の予定をこなしながら参加できるし、現地に行く必要もないので、海外経験のほとんどない私にもハードルが低かった。大学での研究活動やその先の仕事において、英語が出来るかどうかで選択肢の幅も変わると思うので、英語でコミュニケーションを取るための心構えを作るつもりで参加を決めた。

授業について

授業科目は“Writing&Composition”, “Reading&Vocabulary”, “Speaking&Pronunciation”, “Grammar Usage”, “Malaysian Studies” の5つだった。



授業は同期型の授業であり、2時間の授業時間のうち最低1回は各個人に発言権が与えられた。積極的に発言すれば教師にも名前を覚えてもらえ、より発言するチャンスが多くなる。オンラインなので直接会うことがない分、少ない機会的印象を残すことは大事だと思うので、物怖じしてしまい堂々と話せなかったのが今回の私の反省点である。

授業がすべて英語で行われることに関して少し不安はあったが、教師が比較的ゆっくり話してくれるのと、パワーポイントなどの資料のおかげで何とか授業を理解することが出来た。

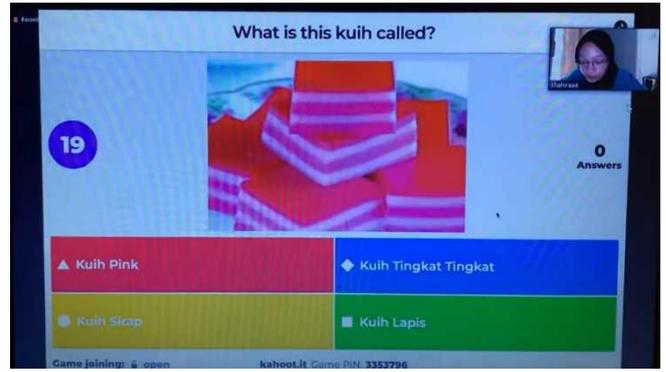
また同時に自分も、これまではより流暢に話すことだけを意識していたが、日本語なまりがある自分が日本語圏以外の人に言っていることを伝えるにはどのように話せばいいのか考える機会になった。

授業時間外の交流

このプログラムにはバディ制度があり、授業が始まる前からLINEやInstagramでバディの人と連絡を取っていた。そのため、一切人と会うことのないオンラインであっても孤独を感じずに受けられたと思う。バディの人とは、授業で出た課題を一緒に解いたり、LINE電話をしたりした。LINE電話では向こうの家族と少し話をさせてもらったり、作っている料理の様子を見せてくれたり、マラヤ大学のキャンパスツアーをしてくれたりした。家族が出てきたときは驚いたが、会ったことはないのにとても気さくかつ親身に接してもらい、感謝している。

バディ以外の人との交流も、クラス単位で行われた。Online activity といって、授業時間後に週3回ほどマラヤ大学の学生が企画してくれた交流の時間があった。活動内容は毎回違って、マレーシアに関するクイズ大会をしたり、映画を見たり、ダンスをしたり人狼をしたりした。

↓ Online Activityの様子



最後に

参加を希望していた海外短期プログラムだったが、アルバイトや部活と並行しながらという思いがけない形での参加となった。普段の生活とあまりに地続きだったので、正直あまり実感が持てないというか、切り替えが難しかった部分もあった。

しかし、このプログラムはとても貴重な経験となった。バディの人と話したり、授業中に発言するときうまく話せない自分にもどかしい思いをすることが多々あった。人とのつながりを広げるためにも、もっと多言語を学びいろんな場を経験していきたいと思った。

また、恥ずかしながらマレーシアについて参加前はほとんど何も知らない状態だったが、今回の経験によりずっと身近に感じ、もっと知りたいと思うようになった。

これからしばらく英語学習はTOEIC対策などインプット中心になると思うが、英語で伝えるという意識も忘れずに学習を続けていきたい。そして、海外渡航が出来る状況になれば、今回お世話になった方々に会いにマレーシアに行きたいと思う。